

ドイツ語学科		教授	山路 朝彦	大学院の授業担当 有
教育活動				
教育実践上の主な業績		年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)				
1	学生の授業参加意識の向上の取り組み		毎回担当個所の訳をE-mailを使って提出させる。また、全員に配布、授業を通して相互に添削をさせる。これにより、学生の授業への貢献意識を高めるとともに、自身および相互の評価を行いうる客観的評価態度を養っている。	
2	学生による授業評価の活用		毎学期授業終了時に行われる授業評価に基づいて授業の理解度と授業方法が適当であるかを確認し、次学期以降の授業内容と授業方法の改善に役立てている。	
3	視覚メディアの活用		テキストの内容(例:聖書)に沿った絵画(例:宗教画)等を書画カメラ等を通して提示することにより、学生の関心を喚起するとともに、多回路による記憶を図っている。	
4	プロトコルによる記憶の定着		授業内容についてプロトコルを作らせる作業により、授業内容を整理して定着させ、また、後にプロトコルを通読することにより内容全体の概観を得、また内容を想起させるとともに、それを自身の論の中で引用することを可能としている。	
2 作成した教科書、教材、参考書				
1	『ゼロから始める 書き込み式 ドイツ語 BOOK』成美堂出版 2013年		初学者向けに「聞いて」「書く」を繰り返す教材としてドイツ語入門書を作成した。	
2	ドイツ語講読用教材の作成		ドイツ語講読の教材として、ルター訳聖書、現代ドイツ語訳聖書、リライト版聖書を用いて、相互に文体を対照できるように作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
1	学会発表「多様な学生との共生を前提とした教育組織の構築」日本独文学会春季研究発表会、ドイツ語教育部会主催シンポジウム「インクルーシブ教育と外国語教育」、学習院大学	2019年6月8日		
4 その他教育活動上特記すべき事項				
1	日本ドイツ語技能検定試験に関して		1994年度から獨協大学を試験実施校とし、その会場責任者を務めるとともに、その後、出題委員を2期務め、さらに2004年度よりは評議委員・2005年度よりは常務理事として運営に関与している。	
学会等および社会における主な活動(学外の委員、役職等)				
年月日		活動内容		
2005年4月～現在に至る		公益財団法人ドイツ語学文学振興会・常務理事		
2004年4月～2020年3月		日本ドイツ語技能検定試験・実行委員		
2012年度		日本独文学会・学会賞審査委員		
2013年度～2015年度		ドイツ連邦共和国フォン・ゾーボルト賞選考委員		
その他				